

## 田代よいとこ - その31 - 校庭の句碑 -

こんな句碑が校庭の隅にあるのをご存じですか？「おもしろい 幕があいたぞ 松かざり」と読めます。

作者は江戸時代の田代の俳人・大矢牛将(ぎゅうしょう)。本名は善十郎。関西、中部、関東を一巡した後、むこう辻の柳樹の下に居を構えたので、柳下亭と号しました。この句碑は田代小学校の前身・長福寺の境内に建てられたもので、かつては檜の大樹の下にあったとか。高さ1.16m、幅75cm、厚さ14cm。

【安政6年(1859)巳末初秋 梅巖樵夫書 北原禅重刀】と刻んであります。ちなみに牛将の子孫の一人は、本校の第13代校長・大矢 良先生です。

この句は、幕末ペリー来航の時代を背景として詠んだものだと言われています。すなわち、ペリーが来航して鎖国は破られ、日本はついに開国する。さあ、これから新しい世の中が始まるぞ、開国日本の夜明けだぞ、さらに今日はめでたい元旦だ、という希望に満ちた心境を表したものと解釈できます。

牛将の師匠は、上荻野の蟹殿洞々(かにどのとうとう)という俳人です。洞々は近郷では名の通った人で、全国に句友がありました。荻野神社に彼の「大空は 蓋(ふた)も実もなし ほととぎす」という句碑があります。



参考資料『句碑めぐり愛川町古今俳句集成』(愛川町教育委員会 昭和37年)  
取材協力 荻田 誠氏(本校元校長)